

平成24年度

# 九州食料・農業・農村情勢報告

## 九州農政局



平成25年6月

## 農林水産省

## は し が き

九州農政局が熊本に設置されて、平成25年5月1日で50周年を迎えることとなりました。

これまでの50年を振り返ってみると、九州農政局管内では、畜産基地の建設や大規模な土地改良事業による基盤整備等が行われ、肉用牛やトマト等の生産が日本一となるなど、めざましい発展を遂げてきました。

しかし、一方で、度重なる自然災害の発生や大規模な家畜伝染病の発生、事故米の不正規流通など消費者、生産者、流通業者全体を巻き込んだ不幸な出来事も発生し、苦労や不安の多い50年でもありました。

また、50年前と比較すると、九州の農家戸数や耕地面積は大きく減少しており、その減少率は、全国の減少率より大きな値となっています。

これからの九州の農業が、食料の安定供給や地域社会の活力を維持・発展させていくためには、農家の努力もさることながら、国や県による様々な施策を講じることが必要不可欠です。

このような状況において、農林水産省では、24年度の大型補正予算と25年度予算を合わせた切れ目のない経済対策により「攻めの農林水産業の展開」を強力に推進していくこととしています。

本報告書は、こうした最近の動きを踏まえつつ、九州管内における食料・農業・農村をめぐる情勢をとりまとめたものです。

巻頭では、この1年間の主な出来事をトピックスとして紹介しています。

また、特集編としては、地球温暖化の影響と考えられる気候の変動や、台風・火山等の自然災害について、九州における被害と対策の現状、今後の課題と方向性を農業者等へのアンケート調査の結果や先駆的な取組事例、研究成果等を交えながら紹介しています。

さらに、動向編としては、23年から24年にかけての九州農業の動向を概観するほか、食料自給率向上と食の安全の確保、農業の持続的発展、農山漁村の活性化・多様な交流に向けての各種取組を取り上げています。

本報告書が、関係者の方々に広く活用され、九州の農業や農村における厳しい現状や積極的な取組等について理解を深められ、今後の九州の食料・農業・農村や地域の発展の一助となれば幸いです。

最後に本報告書の作成に当たり、多大なご協力をいただきました方々に、心より感謝申し上げます。

平成25年6月

九州農政局長 吉村 馨



## トピックス編

1	第10回全国和牛能力共進会長崎県大会で九州勢が大活躍	3
2	人・農地プラン、青年就農給付金の取組	5
3	臭化メチル代替技術の確立・普及について	7
4	国営かんがい排水事業「筑後川下流白石平野地区」が完了	9
5	梅雨前線豪雨の発生 ～「これまでに経験したことがないような大雨」が九州北部を直撃～	10
6	九州から天皇杯（農林水産祭）	12

## 特集編 九州農業と自然災害～地球温暖化を始めとする自然災害とのたたかい～

はじめに	15
<b>第1章 九州における近年の気候の変動を含む自然災害と農業被害の状況</b>	<b>16</b>
1 近年の気候の変動による農業への影響	16
(1) 高温化による被害の現状と今後	17
(2) 集中豪雨による被害の現状と今後	22
コラム 【九州農政局における災害応急用ポンプの貸出し】	23
2 過去からあった台風などの自然災害による農業被害	24
(1) 台風・豪雨被害	24
コラム 【『49』の衝撃 ～平成18年台風第13号による水稻の潮風害～】	25
(2) 火山災害	27
コラム 【桜島】	27
(3) 干ばつ、渇水	29
<b>第2章 各種災害対策の現状と課題</b>	<b>30</b>
1 高温化等による被害対策の現状と課題	30
(1) 生産技術対策等	30
コラム 【高温耐性品種の研究・開発～数百万株の中から～】	31
コラム 【夏季における九州の野菜流通は九州域外産が約7割】	35
(2) 温暖化を逆手に取った事例	37
コラム 【農業分野における温暖化軽減対策】	39
2 台風や集中豪雨等による災害対策の現状と課題	40
(1) かんがい・排水、農地防災対策等	40
コラム 【通潤用水（通潤橋）】	45
(2) 生産技術対策等	46
(3) 塩害を逆手に取った事例	52
3 火山噴火による降灰被害対策の現状と課題	53
(1) 生産技術対策等	53

コラム	【新燃岳の火山灰・低温乾燥熟成加工食品「灰干し」の取組（宮崎県高原町）】	54
-----	--------------------------------------	----

<b>第3章</b>	<b>気候の変動を含む自然災害に対する九州農業の方向性</b>	<b>55</b>
1	かんがい・排水・農地防災事業等	56
(1)	台風や集中豪雨に備えて	56
(2)	干ばつや少雨に備えて	57
(3)	「減災」のための取組	58
2	温暖化に対応した技術等の試験研究	59
(1)	全国横断的な取組	59
(2)	九州管内での各県試験研究機関等の連携	59
3	農業者への相談・支援	61
4	気象情報の利活用による対応策	63
5	農業災害補償制度（農業共済）の活用によるリスクヘッジの促進	66
おわりに		68
参考資料		69

## 動 向 編

<b>第1章</b>	<b>九州農業の主要指標の動き</b>	<b>77</b>
1	主な農作物生産の動き	77
(1)	水稲	77
(2)	麦類（4麦）	77
(3)	大豆	77
2	主な畜産の飼養頭数の動き（平成24年2月1日現在）	78
(1)	乳用牛	78
(2)	肉用牛	78
(3)	豚	78
3	農業産出額の動き	79
4	農地の動き	79
5	農家数の動き	79
<b>第2章</b>	<b>食料自給率向上と食の安全の確保に向けた取組</b>	<b>80</b>
1	食料自給率の向上を目指して	80
(1)	九州農政局食料安保・自給率向上本部の取組	80
(2)	食育の推進	82
(3)	九州の豊かな農畜産物の地産地消の推進	84
(4)	九州における農産物の生産振興・消費拡大	85
ア	米	85
イ	麦類	87
ウ	大豆	89
エ	畜産	91
オ	飼料作物等	93
カ	野菜・果樹	97

キ	花き・茶・葉たばこ	100
ク	さとうきび・でん粉原料用かんしょ	103
2	家畜の伝染性疾病発生に備えて	105
(1)	九州農政局の家畜伝染病発生時の役割と備え	105
(2)	県との連携強化	106
3	食の安全と消費者の信頼確保	107
(1)	農業生産工程管理（GAP）の推進	107
(2)	適正な食品表示に向けた取組	108
(3)	米穀等の適正流通確保に向けた取組	109
(4)	消費者に対する情報提供とニーズの把握	110
<b>第3章</b>	<b>農業の持続的発展に向けて</b>	<b>112</b>
1	農業者戸別所得補償制度の取組	112
(1)	経営形態別申請状況	112
(2)	交付金別申請件数	112
ア	米の所得補償交付金	112
イ	水田活用の所得補償交付金	113
ウ	畑作物の所得補償交付金	113
(3)	対象作物別の作付計画面積	113
ア	主食用米	113
イ	戦略作物	113
(4)	平成23年産米の米価変動補填交付金	114
(5)	加入申請状況等からみた九州管内の特徴	114
ア	戦略作物の作付状況	114
イ	戦略作物の全国に占めるシェア	115
ウ	二毛作の取組	115
2	「人と農地の問題」の解決に向けて	116
3	多様な農業経営体の育成確保	119
(1)	新規就農者の育成確保	119
(2)	認定農業者の現状	120
ア	認定農業者制度の推進状況	120
イ	特定農業法人、特定農業団体の設立状況	120
(3)	農業経営の法人化	121
(4)	一般法人の農業参入の動向	122
(5)	農村女性の活動の促進に向けた取組	123
4	農地資源の有効活用に向けて	126
(1)	耕地面積と耕地利用率	126
(2)	耕作放棄地解消の取組	127
(3)	農地の流動化と面的集積の推進	129
ア	農地の権利移動面積の推移	129
イ	農地利用集積円滑化事業における利用権設定等面積とその推移について	129
ウ	農地保有合理化事業の実施状況	130
(4)	農地整備を契機とした担い手への農地利用集積	131

5	農業所得増大に向けた取組	132
(1)	農山漁村の6次産業化の取組	132
(2)	農林水産業と食品産業の連携・強化	135
(3)	農林水産物・食品の輸出拡大の取組	136
6	エネルギー生産への農山漁村の資源の有効活用	138
(1)	再生可能エネルギー導入の取組	138
(2)	小水力発電等の再生可能エネルギーの有効利用に向けて	140
(3)	豊富なバイオマス資源を活かして	141
ア	バイオマス活用推進計画の策定	141
イ	バイオマス産業都市の構築	141
ウ	バイオマスの利活用の取組	142
7	環境保全型農業への取組	143
(1)	環境保全型農業直接支払対策の実施	143
(2)	環境保全型農業推進コンクールの実施	143
(3)	エコファーマー認定取得の状況	144
(4)	有機農業の推進	145
ア	九州における県有機農業推進計画の策定状況	145
イ	九州における有機農業地区推進事業の実施状況	145
8	農業農村整備の展開	146
(1)	国営事業の実施状況	146
(2)	農業水利施設等の適切な更新・保全管理	146
(3)	水田の整備状況	147
(4)	畑の整備状況	148
<b>第4章</b>	<b>農山漁村の活性化・多様な交流に向けて</b>	<b>149</b>
1	農山漁村の活性化に向けて	149
(1)	農山漁村活性化の取組	149
(2)	中山間地域の活性化に向けて	152
(3)	鳥獣被害とその対策	154
ア	農作物被害の状況について	154
イ	鳥獣被害防止特措法に基づく地域主体の取組	154
ウ	被害防止計画に基づく取組に対する総合的な支援	155
エ	九州農政局の取組	156
2	農地・水・環境の良好な保全と質的向上を目指して	157
(1)	農業・農村のもつ多面的な機能	157
(2)	農地・農業用水等の保全管理の現状	160
(3)	農地・水保全管理支払交付金にかかる関係機関の取組	161

## 巻末資料

I	平成24年度（第51回）農林水産祭参加表彰行事の農林水産大臣賞受賞者一覧	165
II	参考付表	169

